

2019年度入社式について

2019年4月1日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、以下の通り「2019年度入社式」を行いましたのでお知らせいたします。

鉄道総研は、2019年4月1日（月）10時から、国立研究所において、「2019年度入社式」を行いました。

入社式では、経営幹部立ち会いのもと、熊谷則道理事長から新入職員22名（うち女性は3名）一人一人に辞令が手渡されました。引き続き、理事長から新入職員へ訓示が行われ、それを受け、新入職員を代表して新木悠斗（24）から答辞が述べられました。



写真 理事長から辞令を受け取る新入職員

理事長訓示要旨

本日、鉄道総研に入社されましたこと、誠におめでとうございます。

22名の皆さんを迎えられることを、私を始め、鉄道総研一同、大変喜んでおります。同時に、ほとんどの方が社会人として踏み出す最初の日となりました。社会に船出する緊張感と新しい環境への意気込みを皆さんの表情から感じることができます。

日本の経済状況は順調のように見えるとともに、世界事情の不確定さの影響も懸念されます。鉄道事業では、ご利用いただくお客様の数や貨物の取扱量が対前年比で増えています。一方、北海道の夕張地区の路線が廃止になるなど地域鉄道路線の存続について鉄道事業者と自治体の間で検討が継続されています。さらに、豪雨や地震による鉄道設備の甚大な被害を受けた事業者では、復旧と運転再開に向けて不断の努力が継続されています。このように鉄道状況は常に変動しています。

新しい元号が本日発表になります。元号が変わる時には、なにか新しい時代の始まりを感じさせるようです。いうなれば新しい時代は新しい職員が築く鉄道の時代の到来ともいえると思います。JR会社が誕生した時から今日までの32年間は、鉄道の研究開発を担う私たちは技術を鉄道事業にどのように役立たせるのか、そのためにどのような技術開発を行うべきか、を考え、方向を決め、計画を立て行動してきた期間でもありました。30年を企業活動の一世代とみれば、現在の私たちは二世代の始まりに立っていることとなります。新しい時代を目の前にしたこの時期に入社する職員となるあなた方により、未来の鉄道を創っていただくことを期待しています。

鉄道総研は研究開発の理念として「革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献いたします」とのビジョンを設定しました。私たちが最も大事にすべきことは社会からの「信頼」であることを言外に述べています。この信頼を得



写真 新入職員に訓辞を述べる熊谷理事長

ることを大切する研究開発に取り組んでももらいたい、そのために持っていていただきたいこと二点を話します。

第一には「鉄道の現場を知り本質を見極めてもらいたい」ことです。

鉄道の技術的な問題は営業列車が日々走行する鉄道の現場で見つかることが多いのです。これらの現場で起きていく問題が、研究開発の課題そのものであり、このためには現場で起きていることを良く観察する必要があります。先達の鉄道技術の経験知識を学ぶとともに、現場の現象の本質を先入観なくとらえることに集中してもらいたいと思います。

第二には「あきらめないチャレンジ精神を持ってもらいたい」ことです。

JR会社からは研究成果の実用化を求められます。実用ということは、安全性、使いやすさ、保守のしやすさ、故障しないこと、低価格などいくつものハードルをクリアしなければなりません。開発の途中で気持ちが折れることもあるかもしれません。このとき、持続させるエンジンは正しいと信じる気概なのです。研究開発につきものの山と谷を乗り越え、解決に向けひるまないチャレンジ精神を発揮してもらいたいと思います。

テクノロジーの世界ではデジタル革命といわれる第四次産業革命のただなかにあります。人工知能、ビッグデータ解析、高度シミュレーションなどの技術展開が急速に行われています。このデジタル化は鉄道の革新を生むことになるでしょう。

皆さんのフレッシュな感性とバイタリティに加え、「プロとしての情熱」を持って健康に留意され、鉄道の価値を高めることにまい進されることを期待しています。

新入職員代表者答辞要旨

本日は、私どものためこのように立派な入社式を開催していただき、誠にありがとうございます。新入職員を代表し、心より御礼を申し上げます。

ただいま、理事長より心温まる歓迎と励ましの言葉をいただき、深く感銘を受けるとともに身の引き締まる思いでいっぱいでございます。私どもは、本日より公益財団法人鉄道総合技術研究所の一員として皆様とともに働けることを、誠に光栄に存じております。

本日賜りましたお言葉を胸に、めまぐるしく変化する社会の中で、その社会における鉄道の未来を見据え、今後の鉄道業界、ひいては社会の発展に貢献してまいりたいと考えております。

しかしながら、私どもは若輩ゆえ、至らぬ点多々あるかと存じます。先輩方のご指導ご鞭撻をいただきながら、鉄道総研の名に恥じぬよう精一杯努力し、社会人として精進してまいりますので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、答辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。



写真 答辞を述べる新入職員